

今月、和菓子屋さんの店先には必ずあるお菓子、水無月みなづきについてお話ししましょう。

そもそも、水無月とは「六月」の別名です。ではあのお菓子はなぜ今月食べるのか、不思議だと思いませんか？

本当は六月三十日に食べるものなのです。そしてあの三角形の形の意味もちゃんとあるのです。三角定規？ではなく割れた氷の形です。

今から千数百年前、奈良時代や平安時代にも氷室ひむろというものがありません。平安時代など、清少納言という人が枕草子というエッセイの中にも「金属の器の中に削った氷を入れてあまづら（今でいうとシロップのような薄甘い味の植物からとったもの）をかけて食べるのがいい。」などと、夏の暑さをしのぐ方法を書いています。

でも、電気がないので、当然電気冷蔵庫もありませんね。一体どうやって夏に氷をゲットしたのでしょうか。

それは冬にはじまります。自然の池に張った氷を氷室という所のためこみます。地面に穴を掘り、枯れ草かをしきつめて氷の寝床を作るのです。そこにたっぷり氷をはこび込んだらまた枯れ草で厚いふたをしてその上からまた板などでおい、氷を防ぎます。半年の間かなりの量の氷はとけてしましますが、残ったものを貴族が食べたり、ぴちやぴちやしたりするのです。とてもぜいたくですね。

半年終わったその節目ふしめに足や手を冷たい水につけて元気でまた半年すごせるように祈ったのです。

氷が手に入らない人々は米の粉で三角を作り、氷のつもりで食べました。これが水無月。上の小豆は赤いまめ（滅め）で魔除けまよの意味があります。

音読サイン↓

① 何の話でしょうか？

② 「水無月」のお菓子以外の意味は何ですか？

③ 昔は何という所に氷を保存したのですか？

④ 水無月を食べつついのる内容はどんなことでしたか？

⑤ あまづらの原料は何ですか？

⑥ なぜふつうの人々は夏に氷をたべられなかったのだと思いますか？

⑦ 清少納言は何時代を生きました人ですか？

⑧ 清少納言は今の職業でいうと何に近い？

（ ）主婦 （ ）随筆家 （ ）教師

⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ） 清少納言は枕投げが好きだった。

（ ） 水無月は三角定規を意味している。

（ ） 水無月は半年終わった節目に食べた。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

---



---



---



---



---

できばえは？

